

教育研究業績概要

氏名 林雅彦 ()		
研究分野	所属学会等の名称	
地域医療、高齢者薬物療法、薬物動態、依存性薬物	日本医療薬学会、日本薬理学会、日本 TDM 学会、日本癌治療学会、日本老年医学会、日本薬学会、日本腎臓病薬物療法学会、日本老年薬学会、日本薬学教育学会、日本医薬品安全性学会、日本病院薬剤師会、日本薬剤師会、日本禁煙科学会	
担当授業科目名		
地域医療論、医療人底力実践（学科プログラム）、実践処方解析学、事前実習、セルフメディケーション学、病院実務実習、薬局実務実習、薬学特別演習Ⅰ/Ⅱ、薬学特別演習Ⅱ（再履修クラス）、薬学総合演習、薬局経営学、卒業研究、実践的医療薬学演習、薬学特別演習Ⅰ、Ⅱ		
教育上の能力に関する事項		
事 項	年	概 要
1 教育の実践例、教育に関する評価等 授業の工夫	2012年から現在	補助教材（プリント）の作成、および理解度確認テストの導入
実習	2012年から現在	実習書の作成
2 作成した教科書、教材、指導書等 セルフケアと OTC 医薬品	2017	第 8 章「生活習慣病に伴う症状」8-1 肥満 P158-162.8-2 脂質異常 P163-167. <u>林雅彦</u> 、成井浩二 他
改定 8 版 薬物治療学	2019	第 19 章「消化性潰瘍（胃・十二指腸潰瘍）」P 153-167, 第 20 章「胃食道逆流症」 P 168-171, 第 21 章「胃炎」 P 172-177, 第 22 章「腸炎（急性腸炎）」P178-188, 第 25 章「過敏性腸症候群」195-200. 吉尾隆大井一弥、 <u>林雅彦</u> 他
2019-2020 モデル・コアカリキュラムに沿った わかりやすい新実務実習テキスト	2019	第 2 章 処方せんに基づく調剤 「3 処方せんに基づく医薬品の調製」 P 117-121, P 134-139. <u>林雅彦</u> 、寺町ひとみ 他
改定 9 版 薬物治療学	2019	第 19 章「消化性潰瘍（胃・十二指腸潰瘍）」P 157-171, 第 20 章「胃食道逆流症」 P 172-175, 第 21 章「胃炎」 P 176-181, 第 22 章「腸炎（急性腸炎）」P182-192, 第 25 章「過敏性腸症候群」199-204. 吉尾隆大井一弥、 <u>林雅彦</u> 他
コンパス調剤学 ー実践的アプローチから理解するー	2020	7 章 TDM と処方設計 P 209-224. <u>林雅彦</u> 、八重徹司 他
医療人の底力実践	2020	第 2 章 医療人底力実践（発展プログラム）=チームで学び、成果を得る喜び、意義を知る 第 3 講プレゼンテーション 福田八寿絵、河尻純平、 <u>林雅彦</u> 他
改定 9 版 薬物治療学	2020	第 19 章「消化性潰瘍（胃・十二指腸潰瘍）」P 157-171, 第 20 章「胃食道逆流症」P172-175, 第 21 章「胃炎」P 176-181, 第 22 章「腸炎（急性腸炎）」P182-192, 第 25 章「過敏性腸症候群」P 199-204. 吉尾隆大井一弥、 <u>林雅彦</u> 他
モデル・コアカリキュラムに沿ったわかりやすい 新実務実習テキスト 2021-2022	2020	第 2 章 処方せんに基づく調剤 「3 処方せんに基づく医薬品の調製」 P 113-118, P 133-138. 寺町ひとみ、 <u>林雅彦</u> 他
改定 10 版 薬物治療学	2021	「消化性潰瘍（胃・十二指腸潰瘍）」「胃食道逆流症」「胃炎」「腸炎（急性腸炎）」「過敏性腸症候群（IBS）」 P 158-172, P 173-176, P 177-182, P183-193, P 200-205. 吉尾隆、大井一弥、 <u>林雅彦</u> 他

<p>3 教育実践に関係がある実務経験・委員・講師等</p> <p>2020 年度在宅アドバンス研修会 (三重県薬剤師会教材)「無菌輸液調製」「簡易懸濁法マニュアルの解説」</p> <p>2020 年度末就業薬剤師実習会 (三重県薬剤師会教材) 「バイタルサイン1 (聴診、副作用チェックなど)」「デバイスを使用した服薬指導」</p> <p>2020 年度高度スキル研修 (三重県薬剤師会教材)「バイタルサイン測定項目の確認」「症例解説」</p> <p>2020 年度第1回注射剤の無菌調製研修 (実技) (三重県薬剤師会教材) 【講師】</p> <p>2021 年度第1回注射剤の無菌調製研修 (実技) (三重県薬剤師会教材) 【講師】</p> <p>2021 年度アドバンス研修 A (三重県薬剤師会教材) 【講師】</p> <p>薬剤師等復職・転職サポート研修会プログラム 【講師】</p> <p>高度スキル研修 (三重県薬剤師会教材) 【講師】</p> <p style="text-align: right;">ほか、23</p>	<p>2021</p> <p>2021</p> <p>2021</p> <p>2021</p> <p>2021</p> <p>2021</p> <p>2022</p> <p>2022</p>	<p>「無菌輸液調整」では、ワンパル1号液に KCL 10mEq/10mL シリンジを混注する指示の記載された模擬注射薬指示箋を基に、K+の疑似照会ポイント解説書と無菌調製実技動画を作成した。「簡易懸濁法マニュアルの解説」では、簡易懸濁法の理論的背景の解説書を作成した。</p> <p>「バイタルサイン1 (聴診、副作用チェックなど)」では、心音・呼吸音・腸音の異常音の解説書を作成した。 「デバイスを使用した服薬指導」インスリンの自己注射手技説明、ラニナミビルオクタン酸エステル水和物吸入剤の吸入手技説明書を作成した。</p> <p>「バイタルサイン測定項目の確認」では、バイタルサイン (血圧、脈拍、意識、体温、呼吸) の正常・異常の解説書を作成した。</p> <p>「輸液の基礎」「無菌製剤の投与方法及び配合変化等」解説書と無菌調製実技指導用の注射処方箋を作成した。</p> <p>無菌製剤処理実務経験を有する薬学系教員として、第1回注射薬の無菌調製研修において、「輸液の基礎と配合変化等」(座学)と無菌調製実技指導(実習)を担当し、実技指導用の資料と注射処方箋を作成した。</p> <p>無菌調製 (ヒヤリ・ハット) 事例動画、簡易懸濁法に関する理論背景と書籍紹介に関する教材資料を作成した。</p> <p>「バイタルサイン1 (聴診、副作用チェックなど)」では、心音・呼吸音・腸音の異常音の解説書を作成した。 「デバイスを使用した服薬指導」インスリンの自己注射手技説明、ラニナミビルオクタン酸エステル水和物吸入剤の吸入手技説明書を作成した。</p> <p>「バイタルサイン測定項目の確認」では、心音・呼吸音・腸音の異常音の解説書を作成した。</p>
--	---	---

職務上の実績 (学術団体や社会等における活動) に関する事項

事 項	年	概 要
1 資格, 免許, 特許, 受賞等		
薬剤師免許取得	1988	第 247290 号
岐阜薬科大学 博士 (薬学)	2011	博乙第 340 号
日本病院薬剤師会 感染制御専門薬剤師	2018	第 07-0021-3 号 (更新 2 回目)

<p>2 学術・社会活動上の・委員・講師・実務経験等</p> <p>第 57 回認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ in 東海</p> <p>日本 TDM 学会第 51 回セミナー</p> <p>平成 29 年度「認定実務実習指導薬剤師を対象とした OBE 準拠のカリキュラムプランニング及びこれに基づいた実務実習に関する伝達研修会」</p> <p>第 63 回認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ in 東海</p> <p>平成 29 年度「認定実務実習指導薬剤師のためのアドバンスワークショップ」</p> <p>平成 30 年度「認定実務実習指導薬剤師のためのアドバンスワークショップ」</p> <p>第 35 回日本 TDM 学会・学術大会のシンポジウム 3「抗てんかん薬 TDM 標準ガイドライン 2018 の概要」</p> <p>第 69 回認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ in 東海</p> <p>平成 31 年度「認定実務実習指導薬剤師のためのアドバンスワークショップ」</p> <p>第 77 回認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ in 東海</p> <p>令和 3 年度「認定実務実習指導薬剤師のためのアドバンスワークショップ」</p> <p>第 21 回アジア臨床薬学カンファレンス(ACCP 2022 in Nagoya)</p>	<p>2017</p> <p>2017</p> <p>2017</p> <p>2017</p> <p>2017</p> <p>2018</p> <p>2018</p> <p>2018</p> <p>2018</p> <p>2019</p> <p>2020</p> <p>2021</p> <p>2022</p>	<p>タスクフォース兼第 2 日目「対応」プレゼンテーション担当として第 56 回認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ in 東海の運営に携わった</p> <p>日本 TDM 学会第 51 回セミナーにおいて、実務経験を有する大学教員としてスキルアップワークショップ（心不全症例から学ぶ）では、架空症例を用い TDM の知識を処方監査から処方立案、医師とのディスカッションに繋げる技法を参加者に修得してもらった。クリニカル・アカデミック・ジョイントワークショップでは、司会・発表を務め、グループ参加者の TDM 業務に関する問題点を抽出し、その改善策を協同で模索した。</p> <p>タスクフォースとして平成 29 年度「認定実務実習指導薬剤師を対象とした OBE 準拠のカリキュラムプランニング及びこれに基づいた実務実習に関する伝達研修会」の運営に携わった。</p> <p>タスクフォース兼第 2 日目「第 1 日目の評価報告」担当として第 63 回認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ in 東海の運営に携わった</p> <p>タスクフォースとして平成 29 年度「認定実務実習指導薬剤師のためのアドバンスワークショップ」の運営に携わった。</p> <p>タスクフォースとして平成 30 年度「認定実務実習指導薬剤師のためのアドバンスワークショップ」の運営に携わった。</p> <p>第 35 回日本 TDM 学会・学術大会のシンポジウム 3「抗てんかん薬 TDM 標準ガイドライン 2018 の概要」にてシンポジストとしてフェノバルビタールとトピラマートを担当した。</p> <p>事務局として第 69 回認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ in 東海の運営に携わった</p> <p>タスクフォースとして平成 31 年度「認定実務実習指導薬剤師のためのアドバンスワークショップ」の運営に携わった。</p> <p>タスクフォース兼第 2 日目「問題点への対応」担当として第 77 回認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ in 東海の運営に携わった</p> <p>タスクフォース兼「問題点の対応」担当として令和 3 年度「認定実務実習指導薬剤師のためのアドバンスワークショップ」の運営に携わった。</p> <p>運営（実行）委員として、学会の運営サポートをおこなった。</p>
---	---	--

研究業績等に関する事項

著書名、報告書名等	単・共著の別	発行年	発行所等の名称	著者名・ページ数等
-----------	--------	-----	---------	-----------

(著書)					
・医療人の底力実践 鈴鹿医療科学大学編 第2版	共著	2017	三重大学出版会	第5章「薬物」第6章「タバコ」 P 89-96. P 97-103. 藤原正範, <u>林雅彦</u> 他	
・早期臨床体験テキスト	共著	2017	ネオメディカル	第5章 医療施設などにおける薬剤師の役割 病院における薬剤師の役割、薬局における薬剤師の役割及び企業における薬剤師の役割 P 31-42. <u>林雅彦</u> 、大井一弥 他	
・セルフケアと OTC 医薬品	共著	2017	ネオメディカル	各論 8 生活習慣に伴う症状 P158-162. P163-167. <u>林雅彦</u> 、成井浩二 他	
・改定 6 版 薬物治療学	共著	2017	南山堂	「消化性潰瘍(胃・十二指腸潰瘍)」「胃食道逆流症」「胃炎」「腸炎(急性腸炎)」 「過敏性腸症候群 (IBS)」 P 156-170, P 171-174, P 175-180, P181-190, 197-202. 吉尾隆、大井一弥、 <u>林雅彦</u> 他	
・改定 7 版 薬物治療学	共著	2018	南山堂	「消化性潰瘍(胃・十二指腸潰瘍)」「胃食道逆流症」「胃炎」「腸炎(急性腸炎)」 「過敏性腸症候群 (IBS)」 P 153-167, P 168-171, P 172-177, P178-187, P 194-199. 吉尾隆、大井一弥、 <u>林雅彦</u> 他	
・抗てんかん薬 TDM 標準化ガイドライン 2018	共著	2018	金原出版	Executive Summary 「2. フェノバルビタール」 Clinical Question 「2. フェノバルビタール」 P 10, 11, P40-48. 谷川原祐介、千堂年昭、 <u>林雅彦</u> 他	
・モデル・コアカリキュラムに沿ったわかりやすい新実務実習テキスト 2019-2020	共著	2018	じほう	第2章 処方せんに基づく調剤 「3 処方せんに基づく医薬品の調製」 P 117-121, P 134-139. 土屋照雄、寺町ひとみ、 <u>林雅彦</u> 他	
・改定 8 版 薬物治療学	共著	2019	南山堂	「消化性潰瘍(胃・十二指腸潰瘍)」「胃食道逆流症」「胃炎」「腸炎(急性腸炎)」 「過敏性腸症候群 (IBS)」 P 153-167, P 168-171, P 172-177, P178-188, P 195-200. 吉尾隆、大井一弥、 <u>林雅彦</u> 他	
・第2版 腎臓病薬物療法トレーニングブック	共著	2019	じほう	第12章 プレガバリンによる中枢神経症状 P 148-161. <u>林雅彦</u> 、八重徹司	
・コンパス調剤学 ー実践的アプローチから理解するー	共著	2020	南江堂	7章 TDM と処方設計 P 209-224. <u>林雅彦</u> 、八重徹司 他	

・医療人の底力実践	共著	2020	三重大出版	第2章 医療人底力実践 (発展プログラム) =チームで学び、成果を得る喜び、意義を知る 第3講プレゼンテーション 福田八寿絵、河尻純平、 <u>林雅彦</u> 他
・改定9版 薬物治療学	共著	2020	南山堂	「消化性潰瘍(胃・十二指腸潰瘍)」「胃食道逆流症」「胃炎」「腸炎(急性腸炎)」「過敏性腸症候群 (IBS)」「 P 157-171, P 172-175, P 176-181, P182-192, P 199-204. 吉尾隆、大井一弥、 <u>林雅彦</u> 他
・モデル・コアカリキュラムに沿ったわかりやすい新実務実習テキスト 2021-2022	共著	2020	じほう	第2章 処方せんに基づく調剤 「3処方せんに基づく医薬品の調製」
・改定10版 薬物治療学	共著	2021	南山堂	「消化性潰瘍(胃・十二指腸潰瘍)」「胃食道逆流症」「胃炎」「腸炎(急性腸炎)」「過敏性腸症候群 (IBS)」「 P 158-172, P 173-176, P 177-182, P183-193, P 200-205. 吉尾隆、大井一弥、 <u>林雅彦</u> 他
(報告書等)				
・				
学術論文 学会発表等の題名	発表者名		発表誌名・巻・ページ・発表年等 学会名・発表年・開催都市名等	
(学術論文)	発表者名		発表誌名・巻・ページ・発表年等	
・ The relationship between the peak plasma concentration of methotrexate (MTX) and MTX dose per lean body mass on high-dose-MTX rapid infusion method used for primary CNS lymphoma patients	<u>Hayashi M</u> , Kitamura H, Yamakawa N, 他		J J TDM 27; 1-9, 2010.	
・ Clonazepam use for prevention of acute and delayed vomiting induced by cisplatin-based chemotherapy for lung cancer	<u>Hayashi M</u> , Takao Y, Hata C, 他.		BPB 33; 1907-1910, 2010	
・ The optimal conditions for use of the hydration patch, Win Back®, on human skin	Ooi K, Yokoyama S, <u>Hayashi M</u> , 他.		JPT 40; 1005-1010, 2012.	
・ Characteristics of Japanese Medical and Healthcare University Students with Habitual Consumption of Energy Drinks: Relationship with Perceived Stress	Enokiya T, Azuma E, <u>Hayashi M</u> .		BPB Reports 4; 193-197, 2021	
ほか17				
(学会発表等)	発表者名		発表誌名・巻・ページ・発表年等	
・ 医療系大学の学生を対象としたエナジードリンクに関するアンケート調査	榎屋友幸, 東英一, <u>林雅彦</u> .		第42回日本中毒学会総会・学術集会 2020, WEB.	
・ 臨床の場で汎用されている分包紙の開封強度の検証	林雅彦, 森尚義, 八重徹司.		日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部 合同学術大会 2021 2021, WEB.	
・ An evaluation of the strength required for the opening of one dose packages	Hayashi M, Mori N, Yae T.		The 21st Asian Conference on Clinical Pharmacy (ACCP 2022 in Nagoya) 2022, WEB.	
ほか1				
(その他)				